

北海道新幹線の開業前後の来道者比較 ～エリア別の滞在時間が最大約4割増加～

活用分野

都市・交通

分析及び結果

概要

北海道新幹線の開業前後の、主な観光エリアにおける来道者の延べ滞在時間を調査することで、新幹線の開業効果を分析

- 新幹線開業前の平成27年8月、開業後の平成28年8月における来道者の延べ滞在時間（時／日）※を、携帯電話基地局の運用データを用いて調査した。
※延べ滞在時間（時／日）は、1人が1時間滞在と仮定した場合、1日あたりの来訪者数に相当
- 函館山エリアは4割以上、大沼国定公園周辺は2割増加し、このほか、湯の川エリア、函館ベイエリア、元町エリア、五稜郭エリアでは1割以上の増加が見られる。
- 渡島・檜山管内のほぼ全ての市町で増加し、七飯町、北斗市、木古内町は約2割、福島町、八雲町では1割以上の増加が見られる。

表 エリア別の滞在時間変化状況

開業前 順位	エリア名	延べ滞在時間（時／日）		変化率 (B/A)
		開業前(A)	開業後(B)	
1	函館ベイエリア	1,294,100	1,491,700	115%
2	湯の川エリア	939,800	1,099,600	117%
3	五稜郭エリア	565,700	645,000	114%
4	大沼国定公園周辺	419,600	505,200	120%
5	恵山周辺	362,500	369,500	102%
6	南茅部周辺	299,100	305,800	102%
7	北斗市上磯	149,100	151,200	101%
8	元町エリア	137,600	158,300	115%
9	函館空港	131,500	130,500	99%
10	函館山エリア	125,600	180,400	144%
11	松前城・道の駅「北前船松前」周辺	89,400	91,100	102%
12	函館フェリーターミナル	80,500	84,200	105%
13	北斗市大野	77,500	76,100	98%
14	開陽丸青少年センター・江差追分会館・いしえ会館周辺	66,000	75,900	115%
15	福島町青函トンネル記念館・道の駅「横網の里ふくしま」周辺	58,100	58,000	100%

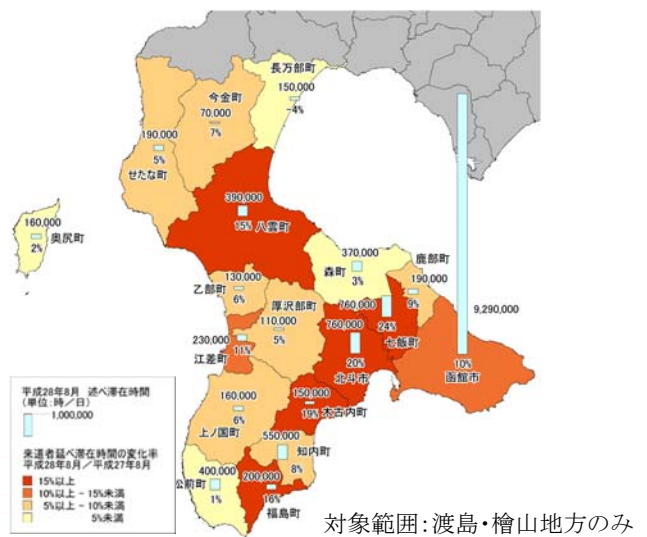


図 市町村別の滞在時間変化状況

背景

- 新幹線のような長距離を輸送する交通機関の新規路線開業は、沿線だけではなく、その周辺の地域にも効果があると考えられるが、その効果を定量的、かつ継続的に把握することで、持続的な発展に寄与できると考えられる。
- 既存統計調査では、沿線やその周辺エリアを同一手法で面的に、かつ高頻度で継続的に調査することは困難という課題がある。
- 携帯電話基地局の運用データを利用することで、沿線だけではなくその周辺の地域も含めたエリアを対象として、定量的に、かつ高頻度で継続的に把握可能である。

分析に用いたデータ

- 時間解像度：1か月合計（2017年8月、2018年8月）
時間区分なし（24時間合計）
- 空間解像度：任意エリア（1km四方～市区町村） 50箇所
- 属性：①居住地都道府県別／②性別×年齢(10歳階)別

課題等

- 北海道新幹線利用者かどうかの区別は行っておらず、エリア全体の人口の開業前後比較により評価した。
- 延べ人数ではなく、延べ滞在時間（時/日）で評価した。

分析の体制

発注機関：北海道庁

受注機関：「北海道新幹線開業後における道内旅客流動調査」受託コンソーシアム
(構成企業)

- パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 株式会社 JTB
- 株式会社ゼンリンデータコム

紹介論文・掲載記事等

—

担当者（問合せ先）

【受注者】

パシフィックコンサルタンツ株式会社 北海道支社 社会イノベーション部 佐々木完

E-mail: mamoru.sasaki{at}ss.pacific.co.jp Tel: 011-700-5225

【データ提供者】

株式会社ドコモ・インサイトマーケティング エリアマーケティング部 小田原亨

E-mail: tooru.odawara.ep{at}dcm-im.com Tel: 03-6205-7470

※上記 E-mail アドレスは、「{at}」を「@」に変更して送信して下さい